

2018年度の主な事業報告

●独立行政法人日本スポーツ振興センター スポーツ振興くじ助成事業(toto)は下記の通りです。

■第19回ジャパンオープン・フレンドリーカップ



12月8日(土)、9日(日)に宮城県グランディ・21セキスイハイムスーパーアリーナにおいてフレンドリーカップが開催されました。2005年の第6回大会に続く2回目の開催です。2011年に起きた東日本大震災で甚大な被害を被った石巻市に宮城県連盟があります。普及のために揃えていた用具は全て流され、普及再開の目処も全く立たない状況の中、県連盟を支えたのが全国のキンボールスポーツ関係者からの応援や支援でした。今回の大会は感謝の気持ちを伝える場であり、全国からの参加者に喜んでもらえる大会にすることが目標でしたが、その気持ちは参加者に十分届いたようです。

また、宮城県連盟が参加料を負担し、石巻地方の小学生チームを募集。これは被災地の子どもたちがスポーツで汗を流し、元気に活動してほしいという願いからです。ジュニアの部には富山県、新潟県、東京都、沖縄県からもチームが集まり計22チームが熱戦を繰り広げました。

■第19回ジャパンオープン・チャンピオンズカップ

2019年2月11日(祝月)に京都府長岡市西山公園体育館においてチャンピオンズカップが開催されました。男女とも

●他の主な事業・取り組みは下記の通りです。

■20周年記念行事



1998年に当連盟の前身である国際キンボール連盟日本事務局が設立され、それから20年。6月23日(土)に東京のコートヤード・マリオット銀座東武ホテルにおいて20周年記念式典及び記念祝賀会を開催しました。新旧役員はもとより都道府県加盟団体の代表者や愛好者、ワールドカップなどでお世話になった行政の方々が集まり、盛大に祝うことができました。遠方より国際連盟CEOのピエール・ジュリアン・ハメル氏が、また、忙しいスケジュールの合間を縫って馳名譽会長にも駆けつけていただきました。参加者に贈られた記念誌には20年の歴史が凝縮されており、懐かしさとともに今後の活動の糧となります。

■第2回アジアカップ2018

10月14日(日)に中国吉林省延吉市にある延辺大学体育館にて第2回アジアカップ2018が開催されました。参加したのは男女ともに日本、韓国、中国、香港、マカオ、シンガポール。大学関係者や学生が観戦に訪れ活気のある大会になりました。結果は男女とも前回に引き続き優勝。大会期間中にはアジア連盟役員会議が開催され、今後の方針を話し合

にクラブチームAURORAが優勝。このクラブは主に国際武道大学の卒業生がメンバーで、継続してこの競技を行うことでスキルアップができているものと思います。

■2018講師派遣

年間を通して全国各地で指導者及びレフリー育成、並びにスキルアップのための講習会を開催しました。フレンドリーカップの開催地である宮城県でも新規C級レフリー講習会とC級レフリーフォローアップ講習会が開催され、大会本番に向けレフリーの育成が行われました。

■クリニック2018

日本代表選手や元日本代表選手の指導による、プレイヤーのためのクリニックを宮城県や沖縄県などで4回行いました。中でも8月8日(水)から10日(日)にかけて開催されたクリニック山梨2018ジュニア合宿が大好評。中高生27名が参加し、技術的な講習はもちろんのこと、仲間とのコミュニケーションのとり方や身体のメンテナンス法など通常の講習会にはない内容を学び、来年も参加したいという声が多く聞かれました。

■教本制作

Manual for instructors and refereesという教本が完成しました。文字通り指導者とレフリーのための教本です。

い、次回の開催地を韓国に決定しました。なお、この事業は公益財団法人業務スーパージャパンドリーム財団 海外派遣支援事業の助成を受け、初めて選手の渡航費や宿泊費全額を当連盟が負担することができました。

■第3回マスターズ2019 in こんぴらさん



昔から普及に携わっている方から最近大ハマリした方まで熱いキンボーラー14チームが2019年1月26日(土)にうどん県・香川に集結しました。試合が始まると年齢を感じさせないヒットにレシーブ。ミスを笑いに転化したり、コート外からの絶妙な「口撃」はさすが年の功。勝つための試合ではなく、楽しむための試合を参加者全員が満喫しました。大会後はホテルの展望大浴場で汗を流してからの表彰式と懇親会。これまでの苦労話や今後の展望など話は尽きませんでした。翌日はこんぴらさんへ。参道入り口から御本宮まで785段。ここで引き返す方が多いのですが、奥社までさらに登って計1368段を制覇した強者もいました。キンボールスポーツと温泉、観光など交流がテーマのマスターズですが、今回も同じ志や想いを持った者が集い、濃密な時間を共有できました。